

3201 249

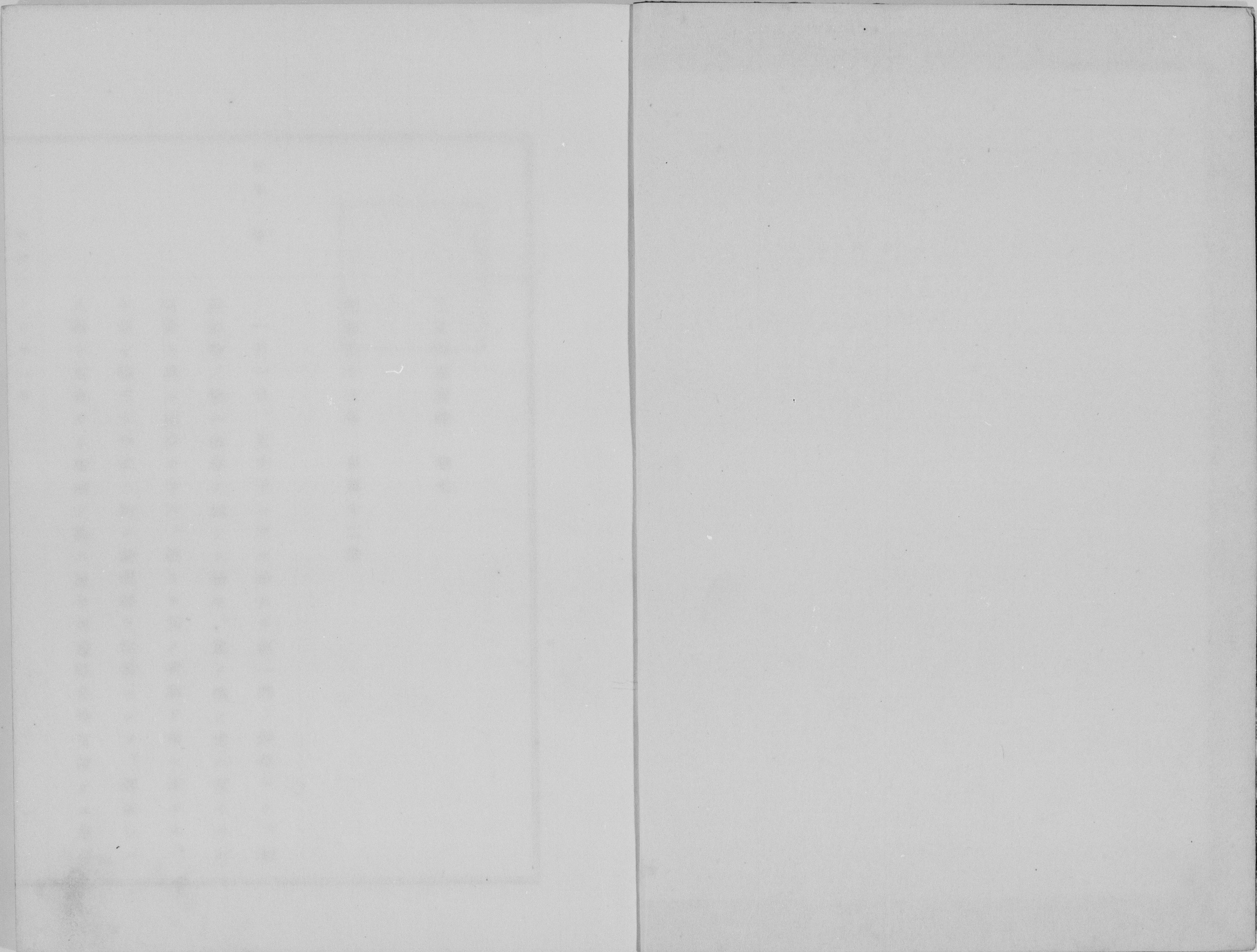
大正天皇實錄 卷七

圖書寮	
番號	64047
冊數	97
函號	秘 4

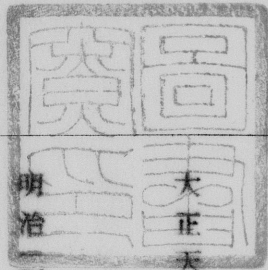
2 3 4 5 6 7 8 9 360 1 2 3 4 5 6 7 8 9 370 1 2 3 4 5 6 7 8 9 380 1 2 3 4

即
4
教
名
以
下
五
十
一
文
中
二
八
二
圖

3201 248



即4款已以下
五十
文中二八二圖
三十七
...



大正天皇實錄 卷七
明治二十三年 實算十二歲

新年ノ儀

一月一日、皇太子ニ立チ給ヒテ第一回ノ新年ナリ。御祝膳等ノ儀ハ例年ノ如シト雖モ、其ノ他ノ式ニ至リテハ從來ト異ル處少カラズ。依リテ其ノ次第ヲ敘シ奉ルニ、午前七時三十分式ノ如ク御祝膳ヲ供進セシメ、儀畢レハ八時十五分ヨリ御座ノ間ニ於テ東宮職高等官並ビニ奏任

明治二十三年一月

即ち叙る以下
五十一
ノ文中ニハ二箇

新年参内

女官等ノ拜賀ヲ受ケサセラレ、八時三十分ヨリ一式立タル鹵簿一ヲ以テ参内、天皇・皇后ニ謁シ新禧ノ祝詞ヲ奏啓ノ後、九時二十分還啓アラセラル。尋イデ十時五十分ヨリ正午迄花鳥間ニ於テ大勲位・親任官・公爵・従一位・勳一等・勅任官・辨香間祇候並ビニ宮内奏任官等ノ拜賀ヲ受ケ給フ。時ニ東宮大夫子爵會我祐準扈從シ、東宮侍從・東宮武官等侍立ス。午後ヨリ御縁故者等ニ謁ヲ賜ヒテ祝賀ヲ受ケサセラル。而シテ拜賀者ニハ謁後、櫻間ニテ菱葩・雉子酒ヲ賜フ。又午前十一時五十分ヨリ午後四時迄文武奏任官三等以上・候・伯・子・男各爵・非役從

圖書寮

皇族ノ拜賀ヲ受ケサセラレ

四位勳三等以上ノ者及ビ神佛各宗派管長等ノ参賀ヲ許シ、御車寄輿廣間ニ備ヘタル名簿ニ自署セシメ、夕刻之ヲ御覽アラセラル。午後五時再ビ御祝膳ノ儀アリ。是ヨリ三日間朝夕ニ御祝膳ヲ供進セシムル事今日ノ如シ。爾後、毎年新年ノ儀之ニ則ル。侍從長佐官日記・儀式祭典録・當番日録・官報・高辻修長日記

皇太后宮
職日記

二日、午後二時二十分花鳥間ニ於テ皇族ノ拜賀ヲ受ケサセラレ、菊間ニテ菱葩及ビ雉子酒ヲ進ゼラル。猶ホ午前十時二十分ヨリ午後四時迄文武奏任官四等以下無等奏任官・奏任神職・非役從六位勳六等以上及ビ門跡寺院

即ち親見以下
五十一
ノ文中ニハ二箇

元始祭御拜

任職等ノ參賀ヲ許ス事一日ノ如シ。爾後、毎年恒儀タリ
侍從長佐官日記・儀式
祭典錄・高辻修長日記

三日、元始祭ニヨリ午前十一時十分御出門、賢所ニ行
啓、御拜アラセラル。式後參内、天皇・皇后ニ謁シ、御
盃・御祝膳ヲ拜味アリ、午後二時五十分還啓アラセラル。
爾後、毎年元始祭ニハ御拜アリ。儀式祭典錄・例規
錄・侍從尉官日記

新年宴會

六日、新年宴會ニヨリ酒饌ヲ賜ラセラル。因ニ五日日
曜ニ當リシヲ以テ是ノ日行ハセラレタリ。官報・供
御日記

青山御所ニ
行啓

七日、午後一時御出門、青山御所ニ行啓、皇太后ニ新
禧ノ祝詞ヲ啓シ、三種交肴壹折ヲ進獻アラセラル。後、

學習院始業
式ニ御臨場

御盃ヲ拜味、午後一時三十五分御退出、歸途、常宮御殿
ニ立寄テ御妹昌子内親王ニ御對面、暫時御慰ノ講談ヲ御
聽聞アリ。三時二十五分還啓アラセラル。
猶ホ青山御所ニハ一日行啓ノ御豫定ナリシガ、御都合
ニヨリ延引アラセラレ、本日此ノコトアリ。爾後、毎年
一日參内ノ後引續キテ行ハセラルルヲ本儀トス。侍從尉
官日記
皇太后宮職日記・
官報・行啓錄
八日、午前八時三十分御出門、學習院ニ行啓、始業式
ニ臨マセラル。猶ホ四月七日・九月十一日ノ始業式モ亦
同ジ。官報・侍從
長佐官摘要

即ち親王以下
ノ文中ニハ二箇
五

御料地御遊歩

是ノ日、午後一時御出門、南豊島第一御料地ニテ御遊歩アリ。三時三十分還宮アラセラル。猶ホ御料地御遊歩ノコト度アリ。左表ノ如シ。官報・高辻修長日記・侍從・侍從長佐官摘要

一月八日	南豊島第一御料地
同 十二日	同 第七御料地
五月十一日	同 第一御料地
十二月十四日	同 同
同 廿一日	同 第七御料地
同 廿八日	同 第一御料地

圖書寮

近衛將校等ニ賜宴

十日、赤坂離宮ニ近衛將校並ビニ同相當官二百三十四名ヲ召シ、立食ヲ賜フ。其ノ次第ヲ敘シ奉ルニ、午後三時三十分諸員參入スルヤ、皇太子モ亦離宮ニ臨マセラレ、先ヅ近衛都督陸軍中將彰仁親王ニ御對顔、三時五十分東宮亮子爵高辻修長ニ先導ヲナサシメ、親王ヲ伴ヒ、謁見所ヨリ御會食所ニ渡ラセラレ、廊下ノ兩側ニ堵列セル旅團長以下ニ謁ヲ賜フ。東宮大夫子爵會我祐準以下東宮侍從・東宮武官扈從ス。尋イデ諸員場ニ入ル。皇太子即チ親王ト御會食、諸員ニ陪食ヲ賜フ。此ノ間近衛軍樂隊ニ命ジ、演奏ヲ行ハシムベキ御豫定ナリシガ、偶々漏逸國

即ち親王以下
文中ニハニ箇
五十一

御料地御遊

是ノ日、午後一時御出門、南豊島第一御料地ニテ御遊歩アリ。三時三十分還宮アラセラル。猶ホ御料地御遊歩ノコト度アリ。左表ノ如シ。官報・高辻修長日記・侍從官摘要

一月八日	南豊島第一御料地
同 十二日	同 第七御料地
五月十一日	同 第一御料地
十二月十四日	同 同
同 廿一日	同 第七御料地
同 廿八日	同 第一御料地

圖書寮

近衛將校等
ニ賜宴

十日、赤坂離宮ニ近衛將校並ビニ同相當官二百三十四名ヲ召シ、立食ヲ賜フ。其ノ次第ヲ敘シ奉ルニ、午後三時三十分諸員參入スルヤ、皇太子モ亦離宮ニ臨マセラレ、先ツ近衛都督陸軍中將彰仁親王ニ御對顔、三時五十分東宮亮子爵高辻修長ニ先導ヲナサシメ、親王ヲ伴ヒ、謁見所ヨリ御會食所ニ渡ラセラレ、廊下ノ兩側ニ堵列セル旅團長以下ニ謁ヲ賜フ。東宮大夫子爵會我祐準以下東宮侍從・東宮武官扈從ス。尋イデ諸員場ニ入ル。皇太子即チ親王ト御會食、諸員ニ陪食ヲ賜フ。此ノ間近衛軍樂隊ニ命ジ、演奏ヲ行ハシムベキ御豫定ナリシガ、偶々漏逸國

即ち親王以下諸員ニ陪食
五十三頁も同様

熱海ニ御遊

太皇太后ノ崩御ニテ、宮中喪トナレルヲ以テ之ヲ止メラル。宴酬ナル頃御手ツカラ酒ヲ賜ヒ御歡談アリ、五時退場アラセラル。侍從尉官日記・庶務課日記・高辻修長日記・典式録・官報

十八日、佛蘭西國大技藝をみゝる。べるたん及ビ同人男はんりーニ謁ヲ賜フ。尋イデ三月七日べるたんニ恩召ヲ以テ、御眞影壹葉並ビニ白紋縮緬壹疋ヲ賜フ。同人ハ我ガ海軍省雇顧問トシテ功績アルヲ以テナリ。贈賜録

十九日、御遊熱海ノ爲メ午前七時二十分御出門、昨年淹留アラセラレタル静岡縣熱海村加茂第一御料地ニ再ビ行啓アラセラル。新橋停車場ニ於テハ御使侍從岡田善長

圖書寮

御遊留中ノ御勅諭

皇太后御使皇太后宮亮林直庸ヲ始メ、貞愛親王以下宮内高等官等數百名ノ奉送ヲ受ケサセラル。又横濱ニテハ神奈川縣知事淺田徳則ニ、國府津ニテハ静岡縣書記官村田豊ニ謁ヲ賜ヒ、午後三時五十五分安著アラセラル。此ノ行、汽車・鐵道馬車・人力車ヲ用ヒサセ給フ事禱日ノ如シ。爾來、此ノ地ニ淹留アラセラルルコト二十有七日ナリ。

其ノ間毎朝午前六時三十分前後ニ御起床アリ、御朝寢後平日ハ學習院御通學ノ時ノ如ク、午前九時ヨリ午後三時迄、土曜ハ正午迄專心御修學アリ、放課後初メテ近傍ヲ遊歩アラセラレ、或ハ風場ケ等ノ御運動アリ。尋イデ御

ノ文中ニハ二箇
 三ノ
 四ノ
 五ノ
 六ノ
 七ノ
 八ノ
 九ノ
 十ノ

3201 255

入浴・晩餐等ヲ済マセラレ、午後六時ヨリ七時半迄御復習アリ、八時頃御寢アラセラルルヲ常トス。學事ハ常ニ東宮御用掛丸尾錦作奉仕ス。日曜・祭日等ハ御修學無キヲ以テ專ラ御運動ニ餘念アラセラレズ、遠ク梅園・伊豆山等ニ出デサセ給フ。就中一月二十六日ノ如キ、梅園ニ御遊歩ノ際ハ途中ニテ銃獵ヲ催サシメ、雉子・鶉ノ類ヲ獵ラセ給ヒツツ目的地ニ到ラセラレ、^御晩餐ニハ豫メ召リレタル博恭王ヲ始メ樞密顧問官伯爵川村純義・同子爵島尾小彌太・學習院長子爵三浦梧樓等ニ陪食ヲ賜ヒ、銃獵ノ熊等ニ御歡談アリ、更ニ御歸還ニ當リ攔捕ノ小鳥ヲ博

圖書寮

銃獵ノ熊等ニ伴
トハ如何ナル義ナリヤ

恭王以下諸員ニ頒タセラル。供奉員等御滿悅ノ體ヲ拜シ感喜セリ。御避寒中ト雖モ、平素ト異ラセ給フ事ナク、勉學ニ運動ニ、努メサセラレタルヲ以テ、此ノ地ノ御體質ニ適セルト相俟チ、殊ニ御保健上ニ益セラルル處妙カラズ。一日モ御微恙ダニ無ク御機體麗シク涉ラセラレタリ。サレバ天皇・皇后・皇太后モ亦侍臣ヨリ御勅諭ヲ聞召シテ御満足アラセラル事申スモ畏シ。加フルニ皇太子モ亦親シク書ヲ上リテ日常ヲ詳細ニ奏啓シ給ヒ、^天侍臣ヲシテ兎・山鳩・鶉・雉子等ノ類ヲ進獻セシメ、^天機位ビニ御機體ヲ候ハセラル。又東宮大夫子爵會我祐準

皇太子ノ御體質ニ
ノ文中ニハ二箇所

入浴・^御晚餐等ヲ済マセラレメ午後六時ヨリ七時半迄御復
 習アリ、八時頃御寢アラセラルルヲ常トス。學事ハ常ニ
 東宮御用掛丸尾錦作奉仕ス。日曜・祭日等ハ御修學無キ
 ヲ以テ專ラ御運動ニ餘念アラセラレズ、遠ク梅園・伊豆
 山等ニ出テサセ給フ。就中一月二十六日ノ如キ^御梅園ニ
 御遊歩ノ際ハ途中ニテ銃獵ヲ催サシメ、雉子・鶉ノ類ヲ
 獵ラセ給ヒツツ目的地ニ到ラセラレ、^御晚餐ニハ豫メ召リ
 レタル博恭王ヲ始メ樞密顧問官伯爵川村純義・同子爵島
 尾小彌太・學習院長子爵三浦梧樓等ニ陪食ヲ賜ヒ、銃獵
 ノ態等ニ御款談アリ、更ニ御歸還ニ當リ鷹捕ノ小鳥ヲ博

圖書寮

銃獵ノ態等ニ御款談アリ
 トハ如何ナル義ナリヤ

恭王以下諸員ニ頒タセラル。供奉員等御滿悅ノ體ヲ并シ
 感喜セリ。御遊歩中ト雖モ、平素ト異ラセ給フ事ナク、
 勉學ニ運動ニ、努メサセラレタルヲ以テ、此ノ地ノ御體
 質ニ適セルト相俟チ、殊ニ御保健上ニ益セラルル處尠カ
 ラズ。一日モ御微恙ダニ無ク御機嫌麗シク涉ラセラレタ
 リ。サレバ天皇・皇后・皇太后モ亦侍臣ヨリ御動靜ヲ聞
 召シテ御満足アラセラルル事申スモ畏シ。加フルニ皇太
 子モ亦親シク書ヲ上リテ日常ヲ詳細ニ奏啓シ給ヒ、屢々
 侍臣ヲシテ兔・山鳩・鶉・雉子等ノ類ヲ進獻セシメ、天
 機位ビニ御機嫌ヲ候ハセラル。又東宮大夫子爵會我祐準

還啓

ハ行啓日記ノ摘要ヲ東京職ヲ經テ侍從長侯爵徳大寺實則ノ許ニ致シ、概慮ヲ安メ奉レリ。

斯クシテ御豫定ノ日子ヲ過サセ給ヒ、二月十五日午前八時熱海村加茂第一御料地ヲ御發程、人力車ニテ吉濱村・江ノ浦村ヲ經テ小田原驛ニ出デ、前例ノ如ク片岡永左衛門方ニテ晝餐^御後、鐵道馬車ニテ國府津停車場ニ至リ、夫ヨリ汽車ニテ新橋停車場ニ御著、御出迎ノ爲メ遣サレタル御使侍從子爵東園基愛・皇后御使侍從試補子爵田沼望・皇太后御使皇太后宮大夫子爵杉孫七郎竝ビニ皇族以下諸員ニ謁ヲ賜ヒ、午後五時四十分御機嫌慶シク還啓アラセ

圖書寮

供奉員

フル。時ニ皇后ハ更ニ權典侍柳原愛子ヲ、皇太后ハ典侍萬里小路幸子ヲ御使トシテ物ヲ賜フ。皇太子十六日參内、大皇・皇后ニ謁シ、更ニ青山御所ニ參候、皇太后ニ謁シ、御土産品等ヲ進獻アツセラル。

猶ホ行啓ニ當リ供奉ヲ命セフレタル者ハ、東宮大夫子爵曾我祐準・東宮亮子爵高辻修長・東宮侍從長侯爵中山孝麿・東宮侍從勸解由小路資承・同子爵小笠原長育・同子爵大宮以季・東宮武官岡崎生三・同澁谷在明・同長瀬良行・同公爵藤司漁通・東宮職御用掛丸尾錦作・侍醫原出豊・同加藤照麿・御學友松平武・同一柳剛等ナリ。

侍從

ノ文中ニハ二箇所

皇太后御誕辰

尉官日記・行啓録・侍從殿日記・官報・各官廳往復・皇太后宮殿日記

二十三日、熱海御滞在中心ヨリ電報ヲ以テ皇太后ノ御誕辰ヲ祝賀アラセラル。行啓録

周宮房子内親王誕生

二十八日、午後六時權典侍園祥子第七皇女ヲ産ミ奉レル趣ヲ東宮大夫子爵曾我祐準啓ス。尋イデ三月三日皇女命名ノ儀ヲ行ハセ給フニ當リ、實所御代拜ヲ東宮侍從子爵大呂以奉ニ命ス。内親王、名ヲ房子ト賜ヒ、周宮ト稱セラル。即テ電報ヲ以テ祝詞ヲ奏啓、御妹昌子・房子兩内親王ニモ祝賀ノ電報ヲ進セラル。行啓録・庶務課日記・記・官報・典式録

孝明天皇御例祭

三十日、孝明天皇御例祭ニヨリ東宮侍從長侯爵中山孝麿

圖書寮

紀元節

ヲ皇靈殿ニ、主殿助宇田淵ヲ山陵ニ遣シ代拜セシム。是ヨリ先、昨明治二十二年十一月十五日年中諸祭典ノ際、御代拜ヲ遣サルベキモノヲ定メラレタル中ニ、本日ノ祭典ハ御拜トアリ。蓋シ御避寒中ニヨリ前記ノ如ク東宮侍從長ニ命セラレタルガ如シ。行啓録・庶務課日記・例規録・官報・儀式祭典録
二月十一日、紀元節ニヨリ電報ヲ以テ祝詞ヲ奏セラレ又賢所ニハ御拜アルベキ處、御避寒中ニヨリ東宮侍從子爵大宮以奉ヲ遣シ代拜セシム。庶務課日記・行啓録・侍從尉官日記・典式録
二十日、午後三時、歩兵第二旅團長陸軍少將男爵野崎貞澄ヲ始メ上京中ノ各旅團長十一名ヲ召シ謁ヲ賜ヒ、尊

孝明天皇御例祭ノ文中ニハ二箇所

仁孝天皇例祭

イデ茶菓ヲ賜フ。侍從尉官日記・庶務課日記・官報・典式錄
 二十一日、仁孝天皇例祭ニヨリ昨年定メラレタル處ニ則リ、東宮侍從長候爵中山孝齋ヲ皇靈殿ニ遣シ代拜セシム。爾後、御代拜ヲ遣サレタル恒例行事ヲ表示スレバ左ノ如シ。庶務課日記・官報・典式錄

月日	御祭典	御代拜
三月廿一日	春季皇靈祭	東宮侍從 勸解由小路資承
十月十七日	神嘗祭	東宮侍從長候爵中山孝齋
十一月三日	天長節祭	東宮侍從子爵小笠原長育
十二月六日	後桃園天皇例祭	東宮侍從長候爵中山孝齋
同十五日	寶所御神樂	同

圖書寮

御微症

二十二日、昨夜ヨリ輕微ノ御風氣ニ罹ラセラレ、御咳嗽ニテ今朝ニ至ルマデ四五度御目覺アリ。仍リテ通學ヲ止メ只管御加養、二十六日ニ至リ御快癒アリシモ、猶ホ三月四日迄學習院教授丸尾錦作ヲ召シ、殿内ニ於テ日課ヲ御修學、五日ヨリ通學アラセラル。侍從長佐官日記・侍醫御容體日記・高辻修長日記
 二十四日、御妹昌子内親王、違例ニヨリ東宮侍從長候爵中山孝齋ヲ遣シテ病症ヲ存問セシメラル。東宮記 附錄
 二十六日、午前十時四谷區南伊賀町三十四番地ヨリ出火、偶々西北風ニ火片屢々御殿ヲ蔽ヘルヲ以テ、皇族。

御所附近出火

文中ニハニ箇所

華族會館御
立寄

發聲ヲ奉送

大臣以下諸員參殿スル者多シ。翌二十七日救恤ノ恩召ヲ以テ東京府ニ金貳百圓ヲ賜フ。猶ホ此ノ後、四月二十五日・十一月二日ニモ亦近火アリ。侍從尉官日記。贈賜錄・官報。

三月十六日、午前十時御出門、上野公園ヲ御遊歩ノ後、華族會館ニ於テ^海發聲、夫ヨリ動物園ヲ御巡覽、午後三時三十五分還啓アラセラル。爾後、屢々此ノコトアリ。侍從長佐官日記。高辻修長日記。

二十八日、天皇、陸海軍聯合大演習統監ノ爲、愛知・京都・廣島・長崎各府縣下ニ行幸アラセラルルヲ以テ、皇太子ニハ午前六時四十分御出門、新橋停車場ニ行啓、

圖書寮

演習地ニ東
宮武官差遣

濱離宮行啓

發聲ヲ奉送アラセラル。爾後、大演習統監等ニテ發駕ノ際ハ親シク驛頭ニ奉送アラセラルル事今日ノ如シ。侍從尉官日記。當番日記。官報・行啓錄。

是ノ日、東宮武官岡崎生三ヲ前記陸海軍聯合大演習地ニ遣シ、實況ヲ觀察セシメラル。因ニ是ノ歲、演習實視ノ爲メ東宮武官差遣ノコト左表ノ如シ。官員進退錄・官報

月日	御差遣先	差遣武官
十月廿二日	近衛師團秋季演習	東宮武官 澁谷在明
十一月十五日	第一師團小機動演習	公體廳司 櫻通

三十日、午前十時過ぎ御出門、濱離宮ニ行啓、御乗船

文中ニハ二箇所

並ビニ土筆橋ミ等ノ御慰アリテ、午後四時四十分還啓アラセラル。是ノ歳、同離宮行啓ノ事屢ミアリ。行啓録・侍從尉官・日記・東宮記附録・官報・高辻修長日記

三十一日、是ヨリ一週間學習院春季休業ナリ。然レドモ御學問所ニ於テ毎日午前九時ヨリ三時間、學習院教授丸尾錦作ヲ召シ御復習アラセラル。侍從尉官日記・官報

四月一日、午後二時十五分御出門、小石川植物園ヲ御遊歩アリ、五時十分還啓アラセラル。是ノ歳、六月八日行啓録・侍從尉官日記・東宮記附録・官報・高辻修長日記

十一月六日ニモ亦コノコトアリ。行啓録・侍從尉官日記・東宮記附録・官報・高辻修長日記

圖書寮

陸軍乘馬學校
校行啓

二日、午前九時御出門、陸軍乘馬學校ニ行啓、學生・士官等ノ乘馬運動・輕乗・離馬等種々台覽アリテ、午後零時五分還啓アラセラル。行啓録・侍從尉官日記・官報

御式年祭御
代拜

是ノ日、靜子内親王三年御式年祭ヲ行ハセラルルヲ以テ、靈殿前ヒニ墓所へ東宮侍從勸解由小路資承ヲ遣シ代拜セシメフル。猶ホ十二月十二日ニハ光格天皇五十年御式年祭アリ。因リテ皇靈殿ニ東宮侍從長候尉中山孝廣ヲ、山陵ニ王殿助宇田淵ヲシテ代拜セシム。官報・典式録・庶務課日記

三日、神武天皇御例祭ニヨリ午前十一時御出門、皇靈殿ニ御拜、直ニ還啓アラセラル。庶務課日記・高辻修長日記・行啓録

神武天皇御
例祭

ノ文中ニハ二箇所

皇后ノ行啓
ヲ奉送

四日、皇后、京都ニ行啓アラセラルルヲ以テ、午前六時四十分御出門、新橋停車場ニ行啓、奉送アラセラル。爾後、皇后地方ニ行啓ノ際ハ驛頭ニ奉送アラセラルルコト一ニ今日ノ如シ。侍從尉官日記、行啓録・官報

第三回内閣勸業博覧會
行啓

六日、午前八時御出門、上野公園ニ於ケル第三回内閣勸業博覧會ニ行啓、陳列品ヲ台覽ノ後、十一時三十五分還啓アラセラル。後、本月二十日・五月六日・七月六日ニモ亦同博覧會行啓ノ事アリ。侍從尉官日記、官報・行啓録
十日、藝ニ勅命ヲ奉シ歐米各國ニ赴ケル威仁親王。同妃慰子任ヲ終ヘ歸朝セルヲ以テ、東宮武官陸軍歩兵中尉

圖書寮

長瀬良行ヲ新橋停車場ニ遣シ迎ヘシメラル。東宮記附録、威仁親王行啓官報

十三日、午後一時御出門、向島ニ於ケル帝國大學春季競漕會ニ行啓、競技台覽ノ後、文部大臣子爵櫻本武揚ノ別荘ニ御立寄りアリテ、午後五時二十五分還啓アラセラ。是ノ歳、十月二十五日ニモ亦、同大學運動會ニ行啓ノコトアリ。侍從長佐官日記、行啓録・官報

十九日、學習院生徒ヲ召シ赤坂離宮内廣芝ニ於テ運動會ヲ催サセラル。是ノ日拜觀ヲ許サレタル權典侍千種任子・同柳原愛子外女官十數名、其ノ他教員・生徒ノ父兄

明治二十三年四月
ノ文中ニハ二回門

兵舎並ビニ
教練御見學

參集畢ルヤ、午前八時四十分近衛軍樂隊ノ「君方代」吹奏禮ニ御臨場、諸競技ヲ台覽、就中、旗取競走等ニ參加アラセラレ、頗ル御興アリ。猶ホ優勝者ニハ親シク賞品ヲ授ケ賜ヒ、午後四時三十分軍樂隊ノ奏樂ヲ合圖ニ御退場アラセラル。此ノ後、學習院御在學中ハ櫻花爛漫タル候ヲ選ビテコノ御催アリ。侍從尉官日記・庶務課日記・典式錄・官報・高辻修長日記

二十五日、午後二時學習院ノ歸途、近衛歩兵第一聯隊ニ行啓、體操及ビ諸教練ヲ御覽ノ後、兵舎等ヲ御巡視、四時二十分還啓アラセラル。爾後、屢々諸隊行啓ノコトアリ。主ナルモノ左ノ如シ。侍從長佐官日記・官報・行啓錄

圖書寮

江ノ島ニ行
啓

十一月四日 近衛歩兵第一聯隊

十二月六日 近衛歩兵第一聯隊・同第二聯隊・同砲兵聯隊

同 十二日 近衛工兵中隊・第一師團工兵第一大隊

同 十三日 近衛歩兵第三聯隊・同第四聯隊

同 廿六日 近衛騎兵大隊

二十七日、午前七時三十分御出門、新橋停車場ヨリ汽車ニテ江ノ島ニ行啓、十時三十分同所岩本樓ニ御著、登壇後、島内御巡覽、尋イデ東宮大夫子爵會我祐準ノ別

ノ文中ニハニ箇所

宮邸行啓

莊ヲ過キ、鎌倉停車場ヨリ汽車ニ御搭乗、午後五時四十分還啓アラセラル。侍從尉官日記・行啓録・官報・高辻修長日記

五月二日、午後三時御出門、伏見宮邸ニ行啓、夕景還啓アラセラル。猶ホ本月四日ニハ北白川宮邸ニ行啓ノコトアリ。東宮記附箋・行啓録・官報

芝離宮行啓

四日、午前十時御出門、芝離宮ニ行啓、午後三時五十分還啓アラセラル。爾後、屢々此ノコトアリ。東宮記附箋・行啓録

還幸啓ヲ奉迎

七日、午後四時十五分御出門、新橋停車場ニ行啓、名古屋ヨリ還幸啓ノ天皇・皇后ヲ奉迎、五時四十五分還啓

圖書寮

横須賀ニ行啓

アラセラル。爾後、還幸啓ノ際ハ概ネ驛頭ニ奉迎アラセラルヲ恒トス。侍從尉官日記・行啓録・官報

十二日、午前七時三十分御出門、新橋停車場ヨリ汽車ニ御搭乗、十時十五分横須賀停車場ニ御著、横須賀軍港司令官海軍少將福島敬典以下ノ奉迎ヲ受ケ、端艇ニテ横須賀造船所ニ到ラセラレ、暫時御休憩ノ後、潜水器使用法ノ説明ヲ御聽取アリ、夫ヨリ目下建造中ノ軍艦等ヲ台覽、横須賀鎮守府ニ於テ晝餐メ後、第一横須賀丸ニ乗ラセ給ヒテ長浦附近ニ出デ魚形水雷發射等ヲ御見學、往路ノ如ク横須賀停車場ヨリ汽車ニテ午後五時十五分還啓ア

幸ノ一ノ打ノ
ノ文中ニハニ箇所

後樂園等ニ
行啓

ラセラル。侍從尉官日記・行啓録・
官報・高辻修長日記

十八日、午前九時三十分御出門參内、尋イデ小石川ナ
ル東京砲兵工廠内後樂園ニ御立寄アリテ、初夏新緑ノ景
ヲ御觀賞ノ後晝餐、夫ヨリ上野ナル第三回内國勸業博覽
會附屬競馬場ニ御臨場、競馬數番御觀覽アリ、午後四時
四十分還啓アラセラル。是ノ歲、十一月十六日後樂園行
啓ノ事アリ。侍從尉官日記・贈賜
錄・官報・行啓録

流行性感胃
症ニ罹ラセ
ラル

二十一日、午前四時ヨリ御發熱^御體温
ニ并リ
流行性感胃症ニ罹ラセラル。仍リテ休學、御靜養ノ處、
漸次快癒アラセラレ、三十日ヨリ御學問所ニ於テ學習院

圖書寮

皇后ノ御誕
辰ヲ祝シ給
フ
御種痘

教授丸尾錦作ヲ召シ、午前・午後ノ二回ニ亘リ約一時間
宛御修學アリ、尋イデ六月二日ヨリ登校アラセラル。侍
從尉官日記・侍醫局御察體日記・官報

二十八日、皇后御誕辰ニヨリ三種交肴壹折ヲ進獻、御
異例ニヨリ參内ヲ止メラル。東宮記附録・皇后
宮職日記・贈賜録

六月十三日、午後五時、種痘醫大野恒徳ヲ召シテ侍醫
池田謙齋ヲ立會ハシメ種痘ヲ行ハセラル。其ノ經過無感
ニアラセラル。因ニ御種痘ノ事ハコレヲ以テ三回ナリ。

侍從長佐官日記・侍醫局拜
診録・侍醫局御察體日記
十七日、去ル七日近衛都督陸軍中將大勳位彰仁親王、

御體温
報告書
ノ文中ニハ二箇所

後樂園等ニ
行啓

ラセラル。侍從尉官日記・行啓録・
 官報・高辻修長日記
 十八日、午前九時三十分御出門參内、尋イデ小石川ナ
 ル東京砲兵工廠内後樂園ニ御立寄アリテ、初夏新緑ノ景
 ヲ御觀賞ノ後晝餐、夫ヨリ上野ナル第三回内國勸業博覽
 會附屬競馬場ニ御臨場、競馬數番御觀覽アリ、午後四時
 四十分還啓アラセラル。是ノ歲、十一月十六日後樂園行
 啓ノ事アリ。侍從尉官日記・行啓録
 二十二日、午前四時ヨリ御發熱^御體溫 [redacted] ニ并リ
 流行性感胃症ニ罹ラセラル。仍リテ休學、御靜養ノ處、
 漸次快癒アラセラレ、三十日ヨリ御學問所ニ於テ學習院

流行性感胃
症ニ罹ラセ
ラル

圖書寮

御體溫
[redacted]
1/1
20

中異例ハ御達例ニ就スル
報告書ノ抄本ナレドモ三十七頁
ノ文中ニハ二箇所ニ後者ヲ用フ

皇后ノ御誕
辰ヲ祝シ給
フ
御種痘

教授丸尾錦作ヲ召シ、午前・午後ノ二回ニ亘リ約一時間
 宛御修學アリ、尋イデ六月二日ヨリ登校アラセラル。侍
 長佐官日記・侍醫局御容體日記・侍
 從尉官日記・高辻修長日記・官報
 二十八日、皇后御誕辰ニヨリ三種交着壹折ヲ進獻、御
 異例ニヨリ參内ヲ止メラル。東宮記附録・皇后
 宮職日記・贈賜録
 六月十三日、午後五時、種痘醫大野恒徳ヲ召シテ侍醫
 池田謙齋ヲ立會ハシメ種痘ヲ行ハセラル。其ノ經過無感
 ニアラセラル。因ニ御種痘ノ事ハコレヲ以テ三回ナリ。
 侍從長佐官日記・侍醫局
 診録・侍醫局御容體日記
 十七日、去ル七日近衛都督陸軍中將大勳位彰仁親王、

陸軍幼年學校
校行啓

御學友ノ任
免

陸軍大將ニ任セラレシヲ以テ、是ノ日被露ノ饗宴ヲ赤坂
離宮内庭廣芝ニ於テ催ス。仍リテ臨場アラセラル。長侍
官日記・官報
侍從殿日録

二十一日、午後一時御出門、陸軍幼年學校ニ行啓、卒
業生徒ノ技術等ヲ台覽、尋イテ卒業式場ニ臨ミ、優等卒
業生川西貞次郎・菱田菊次郎・伊森末吉ノ三名ニ雙眼鏡
ヲ賜ヒ、四時五分還啓アラセラル。侍從殿官日記・官報・
行啓録・高辻修長日
記

二十七日、御學友ニシテ同級外ノ者、赤松喬二等六名
ヲ免ジ、更ニ同級生タル西郷從義ヲ始メ六名ヲ之ニ代ス。

圖書寮

即チ左ノ如シ。侍從殿官日記・庶務課
日記・贈賜録・進退録

新任	罷免	賜物
學習院生徒 細川行雅	御學友 赤松喬二	雙眼鏡
同 西郷從義	同 德大寺則廣	同
同 南部利祥	同 吉井信經	同
同 岩倉道俱	同 東久世秀雄	同
同 甘露寺受長	同 松方乙彦	同
同 伊達新之助	同 木下俊信	同

三十日、賢所ニ於テ大祓ノ儀ヲ行ハセラルルヲ以テ御
贖物ヲ式部職掌典部ニ送附セシム。猶ホ十二月三十一日
ノ大祓モ亦其ノ次第總テ本日ノ如シ。爾後、兩度トモ恒

雙眼鏡ノハ雙眼鏡

陸軍幼年學校
校行啓

陸軍大將ニ任セラレシヲ以テ、是ノ日被露ノ響寧ヲ赤坂
離宮内庭廣芝ニ於テ催ス。仍リテ臨場アラセラル。特從
官日記・官報
侍從職日録

二十一日、午後一時御出門、陸軍幼年學校ニ行啓、卒
業生徒ノ技術等ヲ台覽、尋イテ卒業式場ニ臨ミ、優等卒
業生川西貞次郎・菱田菊次郎・伊森末吉ノ三名ニ雙眼鏡
ヲ賜ヒ、四時五分還啓アラセラル。特從尉官日記・官報・
行啓録・高辻修長日
記

御學友ノ任
免
二十七日、御學友ニシテ同級外ノ者、赤松喬二等六名
ヲ免ジ、更ニ同級生タル西郷從義ヲ始メ六名ヲ之ニ代フ。

圖書寮

即チ左ノ如シ。特從尉官日記・庶務課
日記・贈賜録・進退録

新任	罷免	賜物
學習院生徒 細川行雅	御學友 赤松喬二	雙眼鏡
同 西郷從義	同 德大寺則麿	同
同 南部利祥	同 吉井信	同
同 岩倉道供	同 東久世秀雄	同
同 甘露寺受長	同 松方乙彦	同
同 伊達新之助	同 木下俊信	同

三十日、賢所ニ於テ大祓ノ儀ヲ行ハセラルルヲ以テ御
贖物ヲ式部職掌典部ニ送附セシム。猶ホ十二月三十一日
ノ大祓モ亦其ノ次第總テ本日ノ如シ。爾後、兩度トモ恒

雙眼鏡
ハ雙眼鏡

豫備科第四級御卒業

例タリ。典式錄

七月二日、宮内大臣子爵土方久元父從四位久用卒去ニヨリ東宮侍從勸解由小路資承ヲ御使トシテ其ノ邸ニ遣シ祭桑料金百圓ヲ賜フ。贈賜錄

十一日、學習院ニ於テ卒業式ヲ舉行スルヲ以テ午前八時御出門、式場ニ臨マセラレ、學習院長子爵三浦梧樨ノ奉レル豫備科第四級ノ卒業證書ヲ受ケ給フ。式後程ナク還啓、尋イデ午後二時御出門參内、天皇・皇后ニ謁シ卒業ヲ奏啓、賞トシテ天皇ヨリ鎖付時計ヲ、皇后ヨリおるごゝるヲ拜領シ給ヒ、三時四十分還啓アラセラル。侍從長佐

圖書寮

御學業報告書

官摘要・侍從尉官日記・行啓錄・官報・高辻修長日記

因ニ本學年間ニ於ケル御學業ニ關シテハ、是ノ月御敎養主任子爵曾我祐準ガ天皇ニ奉レル御學業年報ニ詳カナルヲ以テ、左ニ抄録スベシ。ソノ文ニ曰ク、

本學年期ノ一年間ニ於ケル殿下御學業ノ御進歩ハ、殊ニ御課目ノ如キモ文武ノ兩科ヲ合スレバ十有一課ノ多キニ及ブ。素ヨリ其御成長ニ伴ヒ御修學ノ課目漸次ニ増加在ラセラルベキハ當然ノ順序ナレ共、御妙齡ノ殿下ニ在ラセラレテハ、

其御課業亦少シト云フベカラズ。今其課目及ビ御修學ノ時間回数ヲ列記スレバ左ノ如シ。

計	科 事 文							課目	時間	回数
	遊戯	唱歌課	習字課	實物課	數學課	作文課	讀書課			
一〇二六	一一〇	五五	一四六	一一〇	二二〇	一一〇	二二〇	五五	一一〇	
一二〇九	一四六	一一〇	一四六	一一〇	二五七	一一〇	二二〇	一一〇	一一〇	

圖書寮

前表ノ課目ハ即學習院豫備科第四級生ニ對スルモノニシテ、此學年期ニ在リテハ殿下ハ實ニ此第四級ヲ御卒業在ラセラレタリ。而シテ此表ノ第二段第三段ニ記入シタル數字ハ殿下ノ此學期間ニ御修業遊バサレタル時間ト回数トヲ表ハシタル者ニシテ、其合計ニ於テハ壹千〇二拾六時間ト回数壹千二百〇九度ノ夥シキヲ示セリ。此他尙ホ御復習ノ御定課アリ、日曜日ヲ除キ毎夕御殿内ニ於テ遊バサル所ニシテ、上直ノ常侍官教員ニ代リテ之ヲ奉仕ス。其時間概略一時間トス。故ニ之ヲ一週年ニ積算スルトキハ、其

時間モ亦夥シキニ至ル。然レドモ是レ御復習ニ過キサルヲ以テ前表ニ加ヘス。

武藝科ニ在リテハ御體操ノ外ハ、此學期間ヨリ始メサセラレタル者トス。御乘馬ノ如キハ從來往々遊バサレタル事ナキニ非ズト雖モ、唯運動的ノ御遊戯ニ過キザリキ。一定ノ教則ニ基ヅキ御修業在ラセラレシハ、實ニ廿三年一月七日ヲ以テ初メトス。小銃演習ハ主トシテ空砲發射ニシテ、是亦廿二年十月七日ヨリ一ノ御課業トシテ初メサセラル。

御體操ノ一科ハ最モ前キニ初メサセラレタル者ニシ

圖書寮

テ、廿一年九月以後連續シテ今日ニ至レリ。是レ御衛生上最必要ナルヲ以テナリ。

本年期ニ於テ最慶賀シ奉ルベキハ、御健康ノ彌増ニ加ハラセラレタル事是ナリ。現ニ此一年間ニハ御違例ノ爲メ學習院ノ御缺學ハ、僅カニ十七日ニ過キズ是ヲ前年ノ御違例數月ニ涉ルモノニ比スレバ、霄壤

管ナラス。

著ヲ清見寺ニ避ケ給フ

ト。其ノ御進歩ノ狀拜スルニ餘アリ。東宮記
 二十七日、御避暑ノ爲、靜岡縣興津清見寺ニ行啓アラセラル。是ノ日午前五時二十分御出門、新橋停車場ヨリ汽車ニテ興津停車場ニ御著、夫ヨリ人力車ニ御移乘、一時五十八分清見寺ニ安著アラセラル。御出門ニ當リ天皇・皇后御使侍從岡田善長・侍從試補廣幡忠朝並ビニ典侍萬里小路幸子・同室町清子東宮御所ニ候ス。尋イテ岡田侍從及ビ廣幡試補ハ命ヲ奉ジテ新橋停車場迄園籬ニ加リ騎馬ニテ扈從シ、驪頭ニ於テ皇太后御使皇太后宮大夫子爵杉孫七郎ト共ニ奉送ス。皇族ヲ始メ諸員ノ奉送亦恒

圖書寮

清見寺ニ於ケル御勅靜

軍艦御見學

ノ如シ。其ノ他靜岡縣知事時任爲基ハ車中供奉シ、神奈川縣知事淺田德則ハ横濱停車場ニ於テ奉送ス。
 清見寺ニハ之ヨリ八月十五日迄十九日間御淹留アリ。其ノ間凌晨御起床、午前七時半頃ヨリ約二時間ヲ概シテ學修ニ充テ給ヒ、學習院教授丸尾錦作ヲ之ニ侍セシメ、御日課後ハ海水浴ニ或ハ海濱御遊歩ニ、專ラ努メサセ給ヘリ。
 其ノ他軍艦御見學ノ事四回アリ、蓋シ御幼少ノ時ヨリ夙ニ艦艇御搭乘ヲ好マセ給ヒ、屢々海軍兵學校ニ於テ之ニ乘リ、或ハ品川沖ニ碇泊ノ軍艦ヲ訪ハセ給フ事既ニ記

シ奉ル處ナリ。今ヤ當地御滞在ニ當リ海軍省ヨリ警備ノ爲メ特派セル軍艦ノ清水港ニ碇泊スルヲ、海水浴ノ際ニ御覽アラセラレ、忽ニシテ御見學ノ思召アリ。即チ八月一日ニハ江尻ヨリ端艇ニテ軍艦海門ニ行啓アリ。艦長海軍大佐平尾福三郎以下乗員ニ謁ヲ賜ヒ、隅ナク艦内ノ裝備ヲ御巡覽アリ、水兵ノ執銃・戦闘操練等ヲ台覽ノ後、還啓アラセラル。更ニ四日・六日ニモ行啓アリ、兩國トモ邦芳王ヲ同伴ニテ御見學、殊ニ六日ノ際ハ海水浴場傍ヨリ漁舟ニ乗り給ヒテ洋々タル海上ニ出デ、更ニ端艇ニ移リ尋イデ御乘艦アラセラル。以テ船艦ニ御興深ク涉フ

箱根離宮御
淹留

セラルルヲ拜スベシ。斯ク同艦御見學ノ事度アリシガ、偶々警備艦交替ニテ金剛・比叡來航スルヤ、十日兩艦ニ行啓、水兵ノ諸作業ヲ始メ游泳等ヲ御見學アリ。斯クシテ清見寺御淹留ノ十九日間ヲ過サセラレ、八月十六日午前五時二十分此ノ地ヲ御出發、興津停車場ヨリ汽車ニテ沼津停車場ニ赴カセ給ヒ、ソレヨリ三島迄人力車ニ、尋イデ御板輿ニテ箱根離宮ニ向ハセラル。時ニ朝來ノ降雨暫ク歇ミ、遙カ南方ノ江ノ浦・香貫山・沼津・三島等ノ地ヲ瞰下ニ眺メ、風光絶佳ナリ、乃チ山中新田字見晴ニ於テ御少憩アリ、石原坂ヲ經テ午後零時二十分

還啓

離宮ニ安著アラセラル。之ヨリ留リ給フ事七日ニ及ブ。然ルニ此ノ間雨天ノ日多ク、函嶺ノ坂路爲ニ破壊シ、溪流ノ橋梁亦流失スル事頻ナリ。サレバ自ラ御外出ノ事モ無ク、僅ニ八月十九・二十ノ兩日蘆湖ニ扁舟ヲ泛ベ引納ヲ御覽アリ、更ニ仙石原ヲ遊歩アラセラルノミ。是ニ於テ御豫定ノ如ク二十四日午前七時離宮ヲ御出門、須雲村字雜木・湯本ヲ經テ小田原ニ出デ、午後二時四十分國府津停車場ヨリ汽車ニテ新橋停車場ニ御著、御使侍從岡田善長・皇太后御使皇太后宮亮林直庸以下諸員ノ奉迎ヲ受ケサセラルル事恒ノ如ク、御機嫌麗シク午後五時

圖書寮

帝...キリバク

供奉員

五十分東宮御所ニ還啓アラセラル。尋イデ二十五日參内、天皇・皇后ニ謁シ、奏啓アラセラルル處アリ、更ニ青山御所ニ於テ皇太后ニモコノ事アリ、又土産品等進獻常ノ如シ。猶ホ御避暑ニ當リ供奉ヲ命セラレタル主ナル者ハ東宮大夫子爵曾我祐準・東宮亮子爵高辻修長・東宮侍從長候爵中山孝麿・東宮侍從勘解由小路資承・同大宮以季・同子爵小笠原長育・東宮武官澁谷在明・同長瀬良行・同岡崎生三・同公爵鷹司綱通・東宮職御用掛丸尾錦作・侍醫原田豊・同加藤照麿・御學友一柳剛・同松平武・同西郷

從養等ナリ。侍從長佐官摘要・行啓録・皇太后宮職日記・侍從官報・侍從尉官日記・高辻修長日記・侍從錄日

暹羅國皇族
ニ御眞影ヲ
御贈進

八月三日、暹羅國皇帝はたらんぐせノ所望ニヨリ御眞影ヲ贈進アラセラル。外事

三十一日、立太子後最初ノ御誕辰ニヨリ、禮裝ニテ午前八時御座ノ間ニ於テ東宮大夫子爵曾我祐準以下東宮職高等官並ビニ奏任女官等ノ拜賀ヲ受ケサセラレ、尋イデ八時三十分ヨリ花鳥間ニ於テ、祝賀ノ爲メ參殿ノ皇族ニ御對面、又大臣・親任官以下宮内高等官並ビニ近衛上長官等ニ謁ヲ賜フ。十時御出門參内、天皇・皇后ニ謁シ、

更ニ青山御所ニ於テ皇太后ニ謁シ、十一時三十分遷啓アラセラル。晝餐ニ御祝膳ヲ供進セシメ、第十一回ノ御誕辰ヲ祝シ給フ。午後邦芳王以下御學友ノ祝賀ヲ受ケサセラレ、尋イデ福引ノ御慰アリ。御機嫌殊ノ外麗シク涉ラセラル。

是ノ日、天皇ニ小戴壹蓋。御錫壹對。鯉參口ヲ、皇后・皇太后ニ小戴壹蓋。鯉參口ヲ進獻、御妹昌子・房子兩内親王ニモ小戴壹蓋ヲ進セラレ、中山慶子並ビニ權典侍柳原愛子ニ鯉貳口。小戴壹蓋ヲ賜フ。又天皇・皇后ハ掌侍姉小路良子ヲ遣シ鯉壹桶。鯉壹桶ヲ、皇太后ハ權典侍平

暹羅國皇族
ニ御眞影ヲ
御贈進

從養等ナリ。侍從長佐官摘要・行啓録・皇太后官職日記・侍從官報・侍從尉官日記・高辻修長日記・侍從

暹羅國皇弟
ニ御眞影ヲ
御贈進

八月三日、暹羅國皇帝はたらんぐせノ所望ニヨリ御眞影ヲ贈進アラセラル。外事

三十一日、立太子後最初ノ御誕辰ニヨリ、禮裝ニテ午前八時御座ノ間ニ於テ東宮大夫子爵曾我祐準以下東宮職高等官並ビニ奏任女官等ノ拜賀ヲ受ケサセラレ、尋イデ八時三十分ヨリ花鳥間ニ於テ、祝賀ノ爲メ參殿ノ皇族ニ御對面、又大臣・親任官以下宮内高等官並ビニ近衛上長官等ニ謁ヲ賜フ。十時御出門參内、天皇・皇后ニ謁シ、

暹羅國皇弟トアルハ誤ナル

更ニ青山御所ニ於テ皇太后ニ謁シ、十一時三十分遷啓アラセラル。晝餐ニ御祝膳ヲ供進セシメ、第十一回ノ御誕辰ヲ祝シ給フ。午後邦芳王以下御學友ノ祝賀ヲ受ケサセラレ、尋イデ福引ノ御慰アリ。御機嫌殊ノ外麗シク涉ラセラル。

是ノ日、天皇ニ小戴壹蓋・御錫壹對・鯉參口ヲ、皇后・皇太后ニ小戴壹蓋・鯉參口ヲ進獻、御妹昌子・房子兩内親王ニモ小戴壹蓋ヲ進セラレ、中山慶子並ビニ權典侍柳原愛子ニ鯉貳口・小戴壹蓋ヲ賜フ。又天皇・皇后ハ掌侍柿小路良子ヲ遣シ鯉壹桶・鯉壹桶ヲ、皇太后ハ權典侍平

博恭王獨逸
國遊學ニ
御別宴

松好子ヲ遣シ、經節臺臺ヲ賜フ。猶ホ飛騨ヲ賜ヘル諸員ニ
ハ午前八時ヨリ十一時迄赤坂離宮ニ於テ祝饌ヲ賜ヒテ賀
ヲ分タセラル。爾後、御誕辰ノ御祝、毎年概ネ此ノ如シ。
皇太后宮職日記・例規錄・侍從
長佐官摘要・典式錄・贈賜錄

九月六日、博恭王、近々獨逸國ニ遊學ニヨリ正午御別
宴ヲ催シ給ヒ、邦彦王・守正王ト俱ニ御會食アラセラレ、
且ツ博恭王ニ文庫入品ヲ賜フ。侍從長佐官摘要・典
式錄・高辻修長日記

十一日、學習院、神田ヨリ四谷新校舍ニ移リ始業式ヲ
行フヲ以テ午前八時四十分御出門、始業式ニ御臨場ノ後、
學習院御用掛高島信茂ノ先導ニテ各室ヲ御巡覽、十時三

學習院新校
合ニ行啓

圖書寮

初等科第四
年級ニ御進
級

十五分還啓アラセラル。猶ホ十二日ヨリ御通學、初等科
四年級ノ學科ヲ御履修アリ、又東宮御所内ニ於テハ乘馬・
體操・射撃ヲ御日課トシテ御練習、夜間ハ毎日諸學科ノ
復習ニ努メサセラル。侍從長佐官摘要・學習
院史・高辻修長日記

二十三日、秋季皇靈祭ニヨリ午前十一時御出門、皇靈
殿竝ビニ神殿ニ御拜アラセラル。庶務課日記・
官報・典式錄

二十六日、是ヨリ先、府下ニ虎烈刺病發生シ、漸次蔓
延ノ兆アルヲ以テ御所・離宮・學習院以外ノ行啓ヲ止メ
ラル。然ルニ是ノ日、學習院ノ隣地ニ患者發生セルニヨ
リ、爾後十七日間休學アラセラレ、其ノ間學習院教授丸

秋季皇靈祭
御拜

虎烈刺病流
行ニヨリ學
習院御休學

御乘馬競技

尾錦作ヲ召シ御修學アリ、十月十三日ニ至リ御通學アラセラル。侍從長佐官摘要・侍從尉官日記・高辻修長日記・虎烈刺豫防書類

十月四日、近衛歩兵第一聯隊長陸軍歩兵大佐大迫尙敏、第四師團參謀長ニ轉セルヲ以テ、在職中ノ勞ヲ思召シ午餐ノ御催アリ。近衛第一旅團長陸軍少將奥保鞏以下ヲ召シ俱ニ陪食ヲ賜ヒ、且ツ尙敏ニ手鉞壹組ヲ下賜セラル。

侍從長佐官摘要・典式錄・官報

十一日、午後一時三十分ヨリ赤坂離宮御苑内馬場ニ邦芳王以下御學友ヲ召シ、一同ヲ甲乙二班ニ分チ乘馬競技ヲ試ミ給フ。先ヅ當直常侍官ヲシテ乘馬姿勢ノ良否・運

圖書寮

學習院上野分校運動會ニ臨マセラ

根岸競馬場ニ行啓

明治二十三年十月

四九

動ノ熟否等ヲ採點セシメ、其ノ平均點ヲ比較シ、優等者ニハ夫々賞品ヲ賜フ御定メナリ。而シテ皇太子ハ甲班ニ屬シ、平均七十九點ヲ御獲得アリテ一等ニ入賞アラセラ

ル。侍從長佐官摘要

二十九日、午後零時十分御出門、上野停車場ニ於テ天皇・皇后ノ還幸啓ヲ奉迎ノ後、上野ナル學習院分校ニ御立寄アリ、運動會ヲ台覽、二時五十五分還啓アラセラル。

爾後、十一月二十八日ニモ亦此ノ事アリ。侍從長佐官摘要・高辻修長日記・官報・行啓錄

十一月一日、午前十一時十五分御出門、神奈川縣根岸

天長節ニ
リ参内

村ニ於ケル日本競馬會社主催ノ秋季競馬場ニ行啓、會頭
 沖守固・神奈川縣知事淺田徳則等ノ奉迎ヲ受ケサセラレ
 タル後、競馬數番ヲ台覽、優勝馬ニ賞ヲ賜ヒ、午後五時
 四十分還啓アラセラル。爾後、毎年行啓アリ。侍從長佐
官摘擧・

録 行啓

三日、天長節ニヨリ、午後二時御出門参内、天皇ニ祝
 詞ヲ奏シ、鮮鯛壹折ヲ進獻、三時十五分還啓アラセラル。
 天皇モ亦五種交着壹折。小戴參拾壹ヲ賜フ。猶水畫堂ニ
 祝膳ヲ供進セシメラルル事恒ノ如シ。侍從長佐官摘
要・贈賜録

是ノ日、還啓後御乘馬ニテ學習院ニ行啓、第十三回開

圖書寮

近衛歩兵第
一聯隊御入
隊記念日ニ
ヨリ同聯隊
ニ行啓

院記念式餘興トシテ催セル輕業。花火等ヲ暫時台覽、五
 時還啓アラセラル。行啓録・侍從長佐官
摘擧・學習院往復録

四日、近衛歩兵第一聯隊御入隊ノ記念日ニ相當スルヲ
 以テ、聯隊長陸軍歩兵大佐田村寛一ノ請願ヲ入レ、午後
 二時四十分御出門、同聯隊ニ行啓、將校集會所ニ於テ近
 衛都督陸軍大將彰仁親王ヲ始メ近衛歩兵第一旅團長陸軍
 少將奥保登・同第二旅團長陸軍少將乃木希典及ビ各聯隊
 長以下將校ニ謁ヲ賜ヒ、畢リテ陸軍歩兵大尉石黒茂幸ヨ
 リ本年度茨城縣下ニ於ケル第一旅團對抗演習ノ説明ヲ御
 聽取アリ。尋イテ例ノ如ク諸兵ノ教練。綱引。競走等ヲ

すべんさ
ノ輕氣球ヲ
台覽

台覽、就中競走ノ優等者五名ニ賜子二本宛ヲ賜フ。諸技
畢ルヤ集會所ニ於テ親王ト御會食、諸員ヲ陪セシメ五時
五分還啓アラセラル。是ノ日、聯隊ニ酒饌料金貳百圓ヲ
賜フ。行啓録・侍從長
佐官摘要・官報

十二日、天皇・皇后、二重橋外假御座所ニ於テ、英吉
利國人すべんさノ輕氣球操縦ヲ嚮セラル。因リテ皇太
子モ亦、天覽所ニ先著アリテ出御ヲ奉迎アラセラル。折
柄ノ微雨ニすべんさノ輕氣球ニ乗ジ二千五百尺ノ上空ニ
テ凡ソ七八分間種々操縦セル狀ヲ陪覽、頗ル御意ニ叶ハ
セラレ、還幸啓ノ後、御機嫌麗シク午後三時十五分還啓

圖書寮

千歳乃幾久
ヲ贈賜

明宮記ヲ啓
セシム

アラセラル。猶ホ特ニ皇族・大臣・親任官竝ビニ宮内省
勅奏任官・各國公使館員・陸軍將校・學習院及ビ華族女
學校生徒ニモ陪覽ヲ賜ヘリ。行啓録・侍從
長佐官摘要

十四日、是ヨリ先、昨年立太子ノ盛儀ニ當リ、皇族ヲ
始メ群臣ヨリ慶祝ノ意ヲ表シ奉リテ献上セシ詩・歌・文
章ヲ編纂ス。成ルニ及ビ「千歳乃幾久」ト題シ、卷首ニ
宮中顧問官男爵高崎正風ノ序ヲ、卷尾ニ諸陵頭文學博士
川田剛ノ跋ヲ添ヘテ上梓セシム。是ノ日、皇族・親任官
以下勅奏任官及ビ御縁故ノ輩ニ賜フ。贈賜録・千
歳乃幾久

二十一日、慶ニ隆誕以來立太子ニ至ル迄ノ御事續編纂

明治美術會
其ノ他ニ行
啓

ノ藥ヲ舊明宮勤務正五位竹屋光富ニ命セラレシガ、繼日稿成ル。尋イテ東宮侍從子爵小笠原長春ノ校閱ヲ經、是ノ月十六日既ニ五冊ノ淨書ヲ終了、明宮記ト題シ之ヲ啓セリ。是ノ日、小笠原東宮侍從ニ銀瓶壹個竝ビニ金五拾圓ヲ、竹屋正五位ニ古鏡形手釦壹組竝ビニ御好製定家袋壹個ヲ賜フ。贈賜録・明宮記

三十日、午前九時御出門、上野公園ニ於テ開催中ノ明治美術會ニ行啓、會頭子爵田中不二麿ノ御案内ニテ陳列ノ油畫・彫刻等ヲ台覽、尋イテ日本美術協會主催ノ繪畫展覽會ヲ御一覽ノ後、更ニ小石川植物園ニ御立寄り、

圖書寮

在京陸海軍
現役將官等
ヲ召ス

御畫餐後、園内ニ高野槇・銀杏樹・米國産ユリノ木・ニホヒビバ・赤松ヲ御手ツカラ植エ給ヒ、午後二時四十分還啓アラセラル。行啓録・侍從長佐官摘要・官報・東京帝國大學五十年史

十二月一日、近衛歩兵第一聯隊長陸軍歩兵大佐田村寛一ニ午餐ノ陪食ヲ賜フ。尋イテ午後二時三十分、陸軍次官陸軍中將桂太郎以下在京陸海軍現役將官竝ビニ同相當官等二十七名ヲ召シ、運動場ニ於テ狹窄射擊及ビ弓等ノ御相手ヲ命ジ、更ニ新設ノ馬場ニ於テ御乘馬ノ拜見ヲ許サセラル。畢リテ諸員ニ茶菓ヲ賜フ。侍從長佐官摘要・典式錄・官報

十五日、午後五時御出門、學書院ニ行啓、蒙古藝來幻

天覽打毬陪覽

燈ヲ台覽、七時二十五分還啓アラセラル。行啓錄・侍從對官日記
 十八日、天皇午前九時三十分御出門、赤坂離宮ニ行幸、同所廣芝ナル馬場ニ於テ近衛將校・侍從等ノ打毬ヲ天覽ニヨリ、午後三時三十分御乘馬ニテ同所ニ臨ミ、暫時陪覽アラセラル。是ノ月二十五日再ビ第一師團將校ノ打毬天覽ノ節モ亦陪覽アリ。侍從長佐官摘要・侍從職日記・官報
 十九日、皇后、華族女學校ヨリ還啓ノ途、午後一時五分、赤坂離宮御苑内馬場ニ御立寄アリテ、東宮武官澁谷在明ノ號令ニヨル皇太子ノ乘馬運動ヲ台覽アラセラル。尋イテ皇后御學問所等ヲ御巡覽、二時三十分還啓アラセ

皇后皇太子ノ馬術ヲ台覽

圖書寮

御乘馬等ニ優勝

ラル。侍從長佐官摘要・皇
 后宮職日記・官報
 二十七日、午後一時ヨリ守正王・邦芳王ヲ始メ御學友一同ヲ召シ、俱ニ赤坂離宮御苑内馬場ニ於テ乘馬並ビニ體操・狹窄射擊等ノ競技ヲ行ハセラレ、優等者ニ賞ヲ賜フ。時ニ皇太子、體操・狹窄射擊ニ於テ各々一等賞ヲ、乘馬ニ於テ二等賞ヲ獲得アラセラル。行啓錄・侍從長佐官摘要
 三十日、午後一時御出門參内、歲末ノ御祝詞ヲ奏啓等イテ青山御所ニ參候、同ジク啓セラルル處アリ、三時二十分還啓アラセラル。爾後、恒例タリ。侍從長佐官摘要・官報

3201 283

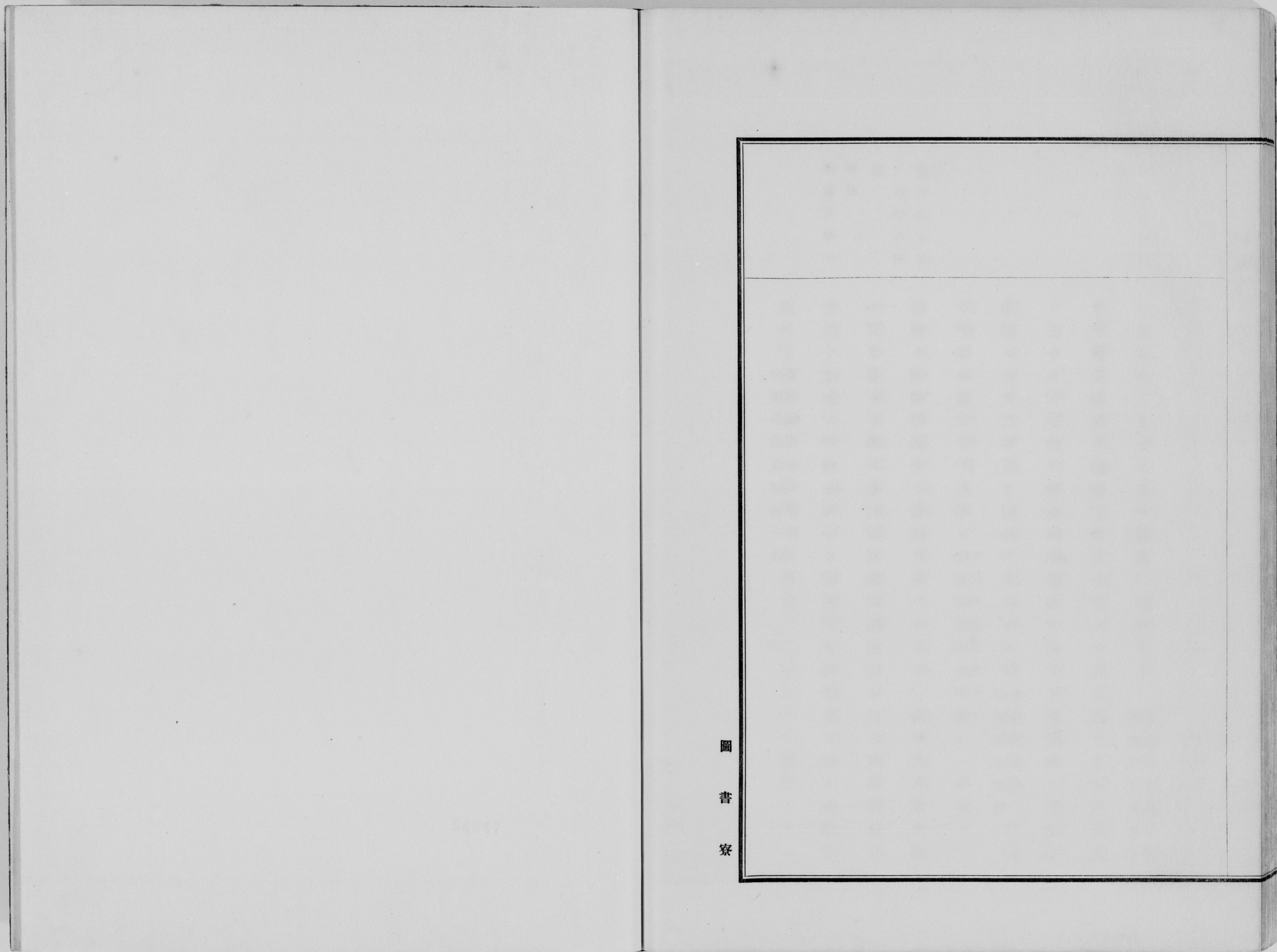


圖
書
寮

3201 284

64047

3201.285

